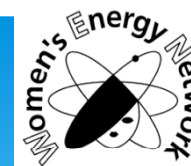


WEN主催「くらしと放射線を考えるつどい」配布資料



「別冊Q&A 放射線の影響」 製作の経緯

2011年12月8日

ウイメンズ・エナジー・ネットワーク(WEN)

目次

1. 製作にあたって
2. 製作経緯
3. 活用状況と反響
4. 今後の課題

1. 製作にあたって

WENの問題意識：

広島・長崎の原爆の経験から放射線への不安感が強いが、放射線がもたらす恩恵についてはそれほど知られていない

そこで、10年前から様々な放射線利用と放射線の基礎知識について情報提供してきた

今回の福島事故を契機に放射線に関する膨大な情報がもたらされ、放射線への不安感が増大する中、何を伝えるべきか

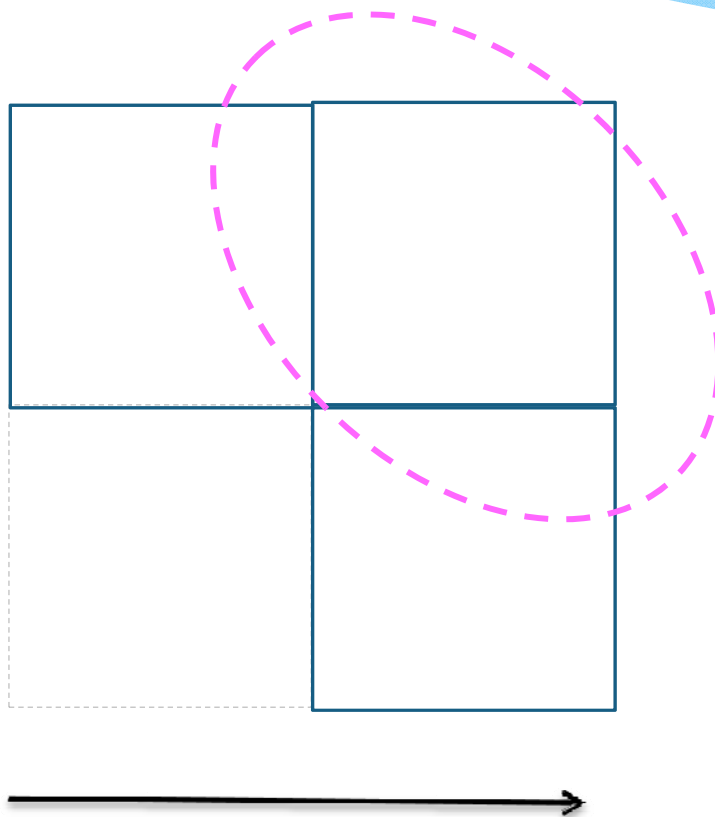


情報を整理し、「安全」「安心」「大丈夫」という言葉は使わず、判断の目安となる情報提供をすべき
⇒小冊子を補完する別冊Q&Aの作成

1. 製作にあたって

対象:福島から離れていても放射線に不安を持っている方、
放射線について知りたい方など関心の高い方

高い
放射線への関心
低い



近い 福島からの距離 遠い

配布方法：

- 大学祭ブースにて
- 講演会やフォーラム
- 会員の口コミ
- HP等での紹介

できるだけ対話をしながら
配布する

2. 製作経緯

(1) 製作前の学び合い(放射線の専門知識を学ぶ)

「放射線のひみつ」8月16日 62名参加

講師：東京大学医学部附属病院放射線科准教授
緩和ケア診療部長 中川恵一氏



<参加者の感想>

- * 講師から100mSv以下のリスクは「白か黒か」で説明しきれない「グレーゾーン」であり放射線防護の「哲学」との話に納得した
- * 放射線被ばくの発がん和生活習慣のリスクの対比はわかりやすいが、リスクがゼロにならないことや確率について、人々のリテラシー向上が必要では
- * 被ばく線量の基準値(目安)は住民参加で決めるべきという話に納得した
- * 「専門家が本当のことを伝えられる社会を」という言葉があったが、私たちにもやるべきことがあると感じた

2. 製作経緯

(2) 製作前の学び合い(消費者目線で考える)

「放射線を正しく怖がるための情報提供について」

9月6日 51名参加

講師:全国消費者団体連絡会事務局長 阿南久氏



＜参加者の感想＞

- * 消費者は、特に食品の放射性物質汚染に不安を抱いており、正確な情報提供を求めていることが確認できた
- * 消費者は、結果だけでなく要因も含めた解説があつて不安感が薄れると感じていることがわかった
- * 真摯に説明することが大切で、分かり合えるまで諦めず、共に学び考え合う姿勢が重要だということがわかった
- * 多様な考えを持つ人がたくさんいて、一つの考えになることはほとんどないことを知ることが大切と感じた

2. 製作経緯

(3) 作業会の開催

* 7月26日(火)～10月13日(木)まで10回 メンバー10名

(4) 手順とこだわり

- * 自らの疑問点を挙げ、情報収集し、頭の中を整理
- * WENとして伝えたいことに焦点を絞る
- * 市民の生の声を生かしたQづくり
- * 限られたスペースをどう使うか
- * 体裁、周期表などにもこだわり
- * 会員によるイラストで親しみやすく
- * 制作者の顔を見せる

女性のハンドバックに入るサイズ



<A5版>



<A4版(二つ折り)>

2. 製作経緯

(5) 製作過程で直面した課題

- * 3月以降WEB上の情報は洪水のごとく、渦巻き、濁り、水かさはますばかり、確かなもの、必要なもの、知りたいものを見つけ出すのが大変
- * 低線量放射線の継続的な被ばくについて、専門家の間でも意見の相違があり、オーソライズされた資料はいくら調べても見つけれなかった
- * 事故により放出された放射性物質について発表機関によってデータが違う。掘り所とする情報が探しにくい
- * 除染について、ヒマワリを植える効果が大きくないことが明らかに、状況が時間とともに変化する中、どの時点の情報とするか
- * 食品安全委員会が示した生涯100mSv以下の説明をどうするか
- * 放射性物質の「食物連鎖」に関しては特に資料が少なく、WEB上では極端な生物濃縮を想起させるようなページもあり書き始めるのに勇気が要った

2. 製作経緯

(6) 特に留意した点

- * 整理した情報をどうやって身近な話題につなげるか
 - ◎大気中や人の体にも放射性物質は存在する
 - ・人体は30種類以上の元素で構成されている(周期表でも表現) Q1
 - ・日本人は魚をたくさん食べるのでポロニウムの摂取量が多い Q6
- * 「安全・安心」と言わずに説明(放射線の量についてどう伝えるか)
 - ・50年前の大気の放射線量 Q5
 - ・放射線の量と人体への影響 Q9,10
- * できるだけ根拠や判断材料の提示を心がけた
 - ・土に入ったセシウムの大部分は粘土に吸着される Q3
 - ・物理学的半減期、生物学的半減期 Q7
 - ・ベクレルをミリシーベルトに換算する Q13

《要因解説が役立つ例》

福島・二本松市の新米から
放射性セシウムが500
Bq/kg検出 (2011.9.26)
福島・伊達市の玄米から放
射性セシウム700Bq/kg超
検出 ((2011.11.29)

他の米への《不安が増大》

風評被害の懸念

根拠を知っている
または知ろうとす
る習慣があると。。

- ・放射性物質が溜りやすい場所
- ・セシウムは粘土質に吸着されやすい

セシウムを吸い上げた
土地は、粘土質か砂地か？
山の水のせいかな？
原因は何だろう？



原因を《冷静に考える》

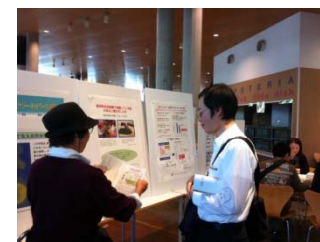
3. 活用状況と反響

■ 大学祭ブースでの説明・配布、柏崎・横浜での講演会

東工大10/22・23、近畿大学11/2・3、東京都市大11/20

柏崎での講演会10/29、横浜での講演会11/1

- * 東京に住んでいて大丈夫か、福島産のものを食べて大丈夫か
- * 放射線はとにかく怖い、放射線治療を心配
- * 震災後、放射線の知識は明らかに増えたが、食物にも放射性物質が含まれていること、殺菌・滅菌にも放射線が使われていること、放射線は遮蔽できることについて知らない人が多い。情報が十分に届いていない
- * ベクレルからシーベルトへの換算方法がわかりにくい
- * 生物学的半減期がどういうものか理解し難い
- * いろいろな食材をバランスよく、楽しく食べることが重要
- * Qはわかりやすいが、Aの文章が長い、やっぱり難しい



4. 今後の課題

- * 状況は時間とともに変化している。(食品中の放射性物質に関する規制値が年内にも決定か?)状況に応じた改訂が必要
- * 最新情報の収集とさらなる自己研鑽が必要
- * よりわかりやすい説明のためのさらなる工夫が必要
- * 身近な話題につなげて説明することがポイント
- * 知っていれば、過剰な不安は収まることもある。「なぜそうなのか」を解明する根拠をわかりやすく説明したい
- * アンケートや対話の中で寄せられた感想や疑問点を整理し、今後の改訂や活動内容に反映させていきたい
- * 対話によるコミュニケーションを続けていきたい